

【ひたちなか総合病院理念】

「地域を護る病院」として説明責任を基本とした最新の技術とサービスを提供し患者さんが納得・満足される医療を遂行する

【ひたちなか総合病院基本方針】

「地域の皆さまの信頼と満足が私たちの生きがいです」のもとに、①急性期から回復期までの一貫した医療を充実させて地域完結型医療を推進する②教育・研修を充実させて最新の医療技術を確認し、職員満足度を向上する③説明責任と最良のサービスを遂行し、患者満足度を向上する④質を基盤とした総合的医療の質経営を実施し、持続成長可能な病院にする を実践する。

【2016年度品質目標】

・地域医療構想・地域包括ケアシステムを検討・準備・実行する・マスタープランを含めた中期計画（2016～2018年度）を作成する・真因を極めPDC Aを回すことを職員の業務の基本とする・医療安全対策の充実に基づく安全風土の醸成を図る・院内全体の問題とした各部署・分野の教育・研修態勢を確立する・データ管理に基づく質・安全・経営態勢を構築する・緩和ケアを含めたがん診療連携拠点病院機能を充実する・退院支援を含めた地域医療支援病院機能を充実する・財務諸表管理を含めた持続成長可能な病院運営する

医療・介護の連携

—改めて地域医療構想の課題を問う—

院長 永井庸次



2016年4月、2016年度の始まりです。桜の開花状況が聞こえ始め、この号が皆様方に届く頃には茨城も桜が満開になっていることと予想します。当院が2010年6月にリニューアルし約6年、翌2011年3月の東日本大震災から5年が経過しました。

この間、医療界は色々変わりました。団塊の世代が後期高齢者の75歳以上に至る2025年問題に端を発し、病院ベッドの機能を明確化する病床機能報告制度の開始、本年8月公表予定の茨城県地域医療構想の策定、既に市町村レベルの活動準備中の地域包括ケアシステムによる医療と介護の連携、この4月から始まる診療報酬改定、最後に2018年4月に予定されています医療計画、介護事業計画の同時改定と医療、介護報酬の同時改定という今後の我が国の医療の方向を決定する事業が目白押しです。図はその一連の動きですが、2018年に医療、介護計画の決定という事は、2016年国の方針決定、2017年度中に茨城県の計画の検討という事です。

地域医療構想では、地域の病院のベッド数、高度の医療が必要な端的に言えばICU、HCUなどの重症集中治療室のベッド数、一般的ながん、急性心筋梗塞、脳卒中、大腿部頸部骨折などの治療を行う急性期医療を担う病棟のベッド数、急性期以降のリハビリなどが必要な回復期と在宅・療養型の病床から嚙下性肺炎など急性増悪で一過性入院加療が必要な地域包括ケア病棟などの回復期病棟のベッド数、最後に療養型などの慢性期医療のベッド数

(これに在宅の患者数も加わります)が、現在どの程度存在し、2025年にはどの程度の必要数(国が既にその数を決定しています)になるのか、それまでの間、行政、病院、診療所を含め議論して集約化しろというものです。

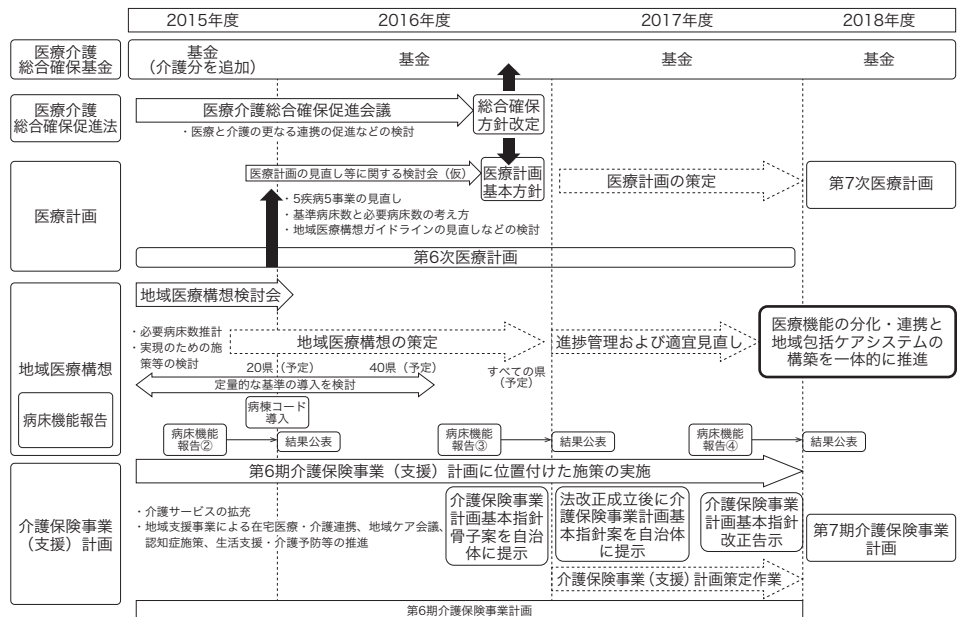
問題は、この地域の外来・入院患者さんの40%前後は水戸市の医療機関に流出していますが、その現状を変えずに10年後のベッド配分を決めることです。急性期のベッドが過剰なのでそのベッドを回復期のベッドに転換していく必要がありますが、急性期のベッドがこの地域で増えないことの問題の1つは、現状でも水戸への受診、入院患者さんへの見舞い等、この状態がそのまま2025年になっても継続す

ということになります。2つ目は、大雑把に言えば、急性期のベッドのこの地域の減らし方を水戸地域と同様に減らすという事です。この急性期のベッド減は将来の医師数減少を意味します。現在、2017年4月に向けて新医師専門医制度が始まろうとしていますが、卒後3年目以降の医師研修の確保とその研修医数は病院所属の専門医指導医数に左右されます。急性期医療という病院の要のベッド数減少は、それに合わせて専門医指導医数減を意味し、その指導を仰ぐ研修医数も必然的に減少します。いや、それは水戸でも同じだというヒトがいるかもしれませんが、このままでは、人口10万人当たりの医師数は水戸市240名、ひたちなか市116名、茨城県全体176名での現状、すなわち、この水戸240対ひたちなか116の医師数差が現状以上にさらに格差をもって今後10年、20年と続いていくことが予想されます。

皆様方、このような状況を許容出来るのでしょうか。私は、何れもこのかけはしで述べていますが、そろそろ行政、医師会、病院団体、産業界、患者さん等一体となって、今後のこの地域の医療・介護体制を考えていく必要があると思います。残されている時間は有りません。病院のベッドが増えないと、医師は増加せず、開業医の先生の数も増加せず、在宅を看とる医師数も増加せず、地域包括ケアシステムという、医療・介護の連携の輪も成立しません。地域の医療・介護を護り、安全・安心の街作りもできません。

4月早々、桜の花咲くこの素晴らしき季節に余り相応しくない話となりましたが、当院は以上述べさせていただいた点を踏まえ、行政、医師会、産業界、なかんずくこの病院を利用して頂いている皆様方と密に連携して、地域を護る病院を推進していきたいと考えております。是非、本年度もご支援のほど、宜しくお願いいたします。

医療・介護制度見直しの今後の3年のスケジュール



筋力低下を防ぎましょう！

総合健診センター 岩谷 悦子

“サルコペニア”という言葉聞いたことはありますか？サルコが『骨格筋・筋肉』、ペニアが『減少』という意味で、加齢に伴う骨格筋肉量の減少を意味しています。身体機能低下、徐々に筋力低下、筋肉量の低下がおこるため、寝たきりや要介護に近づくことされています。

筋肉の量は20代をピークに30代以降は、年に1%の割合で減少していくため特に30代から注意が必要です。簡単に筋力の低下をチェックする方法をご紹介します。

1. 「サルコペニアをチェックする方法」

- ①片足で靴下をはけますか？
- ②椅子に座り、片足で立てますか？
- ③片足立ちで60秒キープできますか？

1つでも「いいえ」があった場合は、下肢筋力が低下している可能性があります

2. 「サルコペニア予防は、食事と運動で筋肉量をキープする事が大切」

- ①食事では、筋肉を作るのに欠かせないまぐろやかつおなど赤身の魚、レバー、大豆製品などに含まれている必須アミノ酸を日々の食事で摂取する。
- ②ごま、きなこ、豚ヒレ肉、玄米などに含まれるビタミンB群を多く摂る。
- ③食事は主食と主菜を組み合わせ不足のないように食べる。
- ④筋肉量を増やすコツとして意識して脚を使うようにする。
- ⑤椅子を利用したスクワットやつま先立ちなど細切れに行うことも筋肉量を落とさないコツ。

3. 「将来の寝たきりを防ぐために」

筋肉は、何歳になっても増やせますので、元気な今のうちにバランスの良い食生活や運動習慣を整えておくことが大切です。

気づいた時から行動に移し、実践していく事が、健康のカギになります！



医師異動の紹介

診療科	氏名	異動日
内科	太田 良雄	採用 (2016. 4. 1)
	曾野 浩治	退職 (2016. 3. 31)
消化器内科	瀬山 侑亮	退職 (2016. 3. 31)
	永瀬 将臣	採用 (2016. 4. 1)
血液内科	黒田 章博	退職 (2016. 3. 31)
リウマチ科	小國 英智	採用 (2016. 4. 1)
消化器外科	古川 健一朗	退職 (2016. 3. 31)
形成外科	内山 佑美	採用 (2016. 4. 1)
	岩 潤 翔	退職 (2016. 3. 31)
	大西 美緒	採用 (2016. 4. 1)
	西田 雄亮	採用 (2016. 4. 1)
産婦人科	藤崎 淳	退職 (2016. 4. 30)
	小林 信一	採用 (2016. 4. 1)
耳鼻咽喉科	境 修平	退職 (2016. 3. 31)
	青柳 安典	採用 (2016. 4. 1)
水戸健康管理センター	山田 佳史	退職 (2016. 3. 31)
	井上 嶺子	採用 (2016. 4. 1)
産業・自動健診科	植村 靖行	採用 (2016. 4. 1)
	牛山 綾	退職 (2016. 3. 31)
臨床研修医	坂倉 明恵	退職 (2016. 3. 31)
	鈴木 宏清	退職 (2016. 3. 31)
	藤本 裕樹	退職 (2016. 3. 31)
	平田 康三郎	退職 (2016. 3. 31)
	王 新	退職 (2016. 3. 31)
	川本 愛実	退職 (2016. 3. 31)
	松田 高明	退職 (2016. 3. 31)
	佐々木 智美	退職 (2016. 3. 31)
	安藤 有佳里	退職 (2016. 3. 31)
	藤原 彩織	退職 (2016. 3. 31)
	馬場 敬一郎	退職 (2016. 3. 31)
	持田 弦	退職 (2016. 3. 31)
	高須 莉子	採用 (2016. 4. 1)
	関口 修平	採用 (2016. 4. 1)
	徳村 和彦	採用 (2016. 4. 1)
	佐野 隆一郎	採用 (2016. 4. 1)
	山崎 広嗣	採用 (2016. 4. 1)
	倉持 篤史	採用 (2016. 4. 1)
	齋藤 伸明	採用 (2016. 4. 1)
	砂川 大輝	採用 (2016. 4. 1)
	角谷 泰輔	採用 (2016. 4. 1)
	田波 貴彬	採用 (2016. 4. 1)
	長友 一樹	採用 (2016. 4. 1)
	安本 倫寿	採用 (2016. 4. 1)
	山足 公美絵	採用 (2016. 4. 1)
	船崎 俊也	採用 (2016. 4. 1)

「看護の日」イベント開催のお知らせ

1990年、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日が看護の日と制定されました。

当院では、「皆さまに気軽に看護にふれていただける行事を」と考え、毎年5月に看護の日のイベントを行っています。

今年は5月13日（金）15:00～、2階会議室と1階ロビーにおいて健康相談、バザー、当院看護師の活動紹介等を行います。他にも、楽しいイベントをたくさん企画していますので、皆さまどうぞお立ち寄り下さい。

筑波大学附属病院ひたちなか社会連携教育研究センター

診療科	氏名	異動日
呼吸器内科	寺本 信嗣	派遣終了 (2016. 3. 31)
消化器内科	間宮 孝	派遣終了 (2016. 3. 31)
呼吸器内科	山田 英恵	派遣開始 (2016. 4. 1)

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

総合健診センター		総合病院		総合健診センター		総合病院	
日	月	日	月	日	月	日	月
1	2	1	2	1	2	1	2
3	4	3	4	3	4	3	4
5	6	5	6	5	6	5	6
7	8	7	8	7	8	7	8
9	10	9	10	9	10	9	10
11	12	11	12	11	12	11	12
13	14	13	14	13	14	13	14
15	16	15	16	15	16	15	16
17	18	17	18	17	18	17	18
19	20	19	20	19	20	19	20
21	22	21	22	21	22	21	22
23	24	23	24	23	24	23	24
25	26	25	26	25	26	25	26
27	28	27	28	27	28	27	28
29	30	29	30	29	30	29	30
31		31		31		31	

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日